

もう一つの純粋な関係性

——リュック・ボルタンスキーのアガペー概念の検討を通じて——

慶應義塾大学 小田切祐詞

1 目的

この報告の目的は、フランスの社会学者リュック・ボルタンスキーのアガペー概念を検討することによって、アンソニー・ギデنزの純粋な関係性概念が含む純粋さとは別様のそれを提示することにある。『資本主義の新たな精神』（Boltanski et Chiapello 1999=2013）を代表作に持つボルタンスキーの社会学は、ピエール・ブルデューとの関係性という点から、次の三つの時期に分けることができる。ブルデューの下で研究を行っていた時期、ブルデュー社会学から距離を置いて自らの社会学を築き上げようとした時期、そしてブルデュー社会学と己の社会学との統合へと向かう時期である。ボルタンスキーがアガペーを社会学の議論に載せようとしたのは、この二つ目の時期である。ブルデュー社会学との距離化の一つの現われと考えることのできるこのアガペー概念が、ギデنزの議論では捉えきれないような人間関係の純粋さの有り様を提示すること。この点を明らかにすることが、本報告の主な目的である。

2 方法

ボルタンスキーがアガペー概念に取り組んだのは、1990年の著作『能力としての愛と正義』（Boltanski 1990）においてである。上述の目的は、この著作の検討と、そこで得られた知見をギデنزの議論と比較する作業を通じて達成される。

3 結果

検討の結果、ボルタンスキーのアガペー概念が、行為様式、時間性、自己という三つの観点から特徴づけられることが明らかになる。すなわち、対抗贈与を期待しない贈与、現在への選好、そして、同一性からのずれとしてある瞬間に生起する、愛の経験と無媒介に接続しているような自己である。

4 結論

純粋な関係性概念における純粋さは、社会的・経済的条件という当該関係にとって外在的な要因ではなく、関係それ自体から得られる感情的満足を、関係の継続もしくは解消の基準にする点に求められる。

それに対して、ボルタンスキーのアガペー概念が内包する純粋さは、純粋な関係性とそれが依拠するコンフルエント・ラブが定期的に招き寄せる、心的見返りに関する計算を遠ざける点に求められる。

文献

Boltanski, Luc, 1990, *L'amour et la justice comme compétences: trois essais de sociologie de l'action*, Paris: Métailié.

Boltanski, Luc et Ève Chiapello, 1999, *Le nouvel esprit du capitalisme*, Paris: Gallimard. (=2013, 三浦直希・海老塚明・川野英二・白鳥義彦・須田文明・立見淳哉訳『資本主義の新たな精神』ナカニシヤ出版.)

Giddens, Anthony, 1991, *Modernity and Self-identity: Self and Society in the Late Modern Age*, Cambridge: Polity Press. (=2005, 秋吉美都・安藤太郎・筒井淳也訳『モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会』ハーベスト社.)

——, 1992, *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*, Cambridge: Polity Press. (=1995, 松尾精文・松川昭子訳『親密性の変容——近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房.)